令和４年度　和歌山大学教職大学院運営協議会（第１回）　概要

日　　時　令和４年９月１２日（火）１４：００～１５：３０

場　　所　和歌山大学東３号館 南５０２（和歌山市栄谷９３０）

出　　席　古田清和 和歌山市立伏虎義務教育学校長、宇津満 田辺市立東部小学校長、岸田正幸 大阪体育大学教育学部教授、本山貢 教育学研究科長／教授、豊田充崇 教職開発専攻長／教授（授業実践力向上コース長）、添田久美子 副学長／教授（学校改善マネジメントコース長・スペシャリストコース長）、竹澤大史 講師（特別支援教育コース長代理）

欠　　席　川嶌秀則 和歌山県教育委員会学校教育局長、岡本友尊 和歌山市教育委員会学校教育部長

概　　要

（１）研究科長挨拶

（２）出席者紹介

（３）報　　告

①本年度の運営体制について

豊田専攻長より、資料１のとおり説明があった。

特徴：授業実践力向上コースの学生が増えたことから、授業実践力向上コースの担当人員を厚く配置している。

②本年度の入学状況及び募集状況について

豊田専攻長より、資料２のとおり説明があった。

傾向：内部進学者が増加しているとともに、授業実践力向上コースの中・高指向が強い傾向。

今年度の入学者選抜は、第一次募集時点での出願者数が比較的多くなっている。

③教員採用試験の状況について

豊田専攻長より、資料３のとおり説明があった。

一部、私立学校教員（中・高）を希望する者もいるため、今後対応を進めていく。

④ストレートマスターの就職状況について

豊田専攻長より、資料４のとおり説明があった。

⑤修了生及び管理職アンケート結果について

豊田専攻長より、資料５のとおり説明があった。

インターネットアンケートのため回答率が悪くなることから、さらなる回答を勧奨している。

⑥「学校実践支援ユニット」について

豊田専攻長より、資料６のとおり説明があった。

学校実践支援ユニット事業のうち、「ブレンディッド・ラーニングによる教員研修履修証明プログラム」「学校支援プロジェクト」「「小規模校実習」実施事業（実施校（５校）の内訳：古座川町２校・串本町３校)」「「学びの丘」連携事業（和歌山県教育委員会事業「ミドルリーダー研修」)」の紹介。

⑦その他

豊田専攻長より、教職大学院紀要（学校教育実践研究）について説明があり、募集時期を秋期から春期に６か月前倒しし、今年度は 13 本の論文・研究報告が投稿された旨の報告があった。

その他、今年度配布したパンフレット等についての紹介及び教職大学院の授業の紹介を行った。

（４）質疑応答／協議

（教員派遣の意義について）

・教職大学院には、修了後はさらなる成果を挙げたいという意欲の高い教職員が出願している。また過去に派遣された教職員の背中を見ることで、教職大学院で学びたいという教職員がいることから、過去の在籍者に入試広報を行うことは効果があるのではないか。（古田氏）

・教職大学院で学ぶことにより、学校担任だけではなく、強い意識を持って学校全体の底上げの視点を持つ教員が学校現場に戻ってくることは大きな効果がある。（宇津氏）

・上記の視点を持って学校現場が教職大学院に派遣することは重要な意義がある。（岸田氏）

・教職大学院修了後、今度は学校で管理職として戻ってくることも学校現場にとって意義がある。（岸田氏）

（（３）⑥について）

・事業の実施に際しては、教員免許更新講習廃止に伴う今後の新しい研修制度との連携を検討する必要がある。（岸田氏）

➔今後検討を進める。実施規模についてもあわせて検討。

（その他）

・教職大学院によってそれぞれ取り組みに差があると思うが、和歌山大学の特徴や近年の傾向、今後の教職大学院存続に向けた他大学の取組みについて。（岸田氏）

➔全国の教職大学院ともに基本的な制度設計は同じであるが、本学においては実践知に応じたカリキュラム設定など、厳格に現職教員・ストレートマスターを分けている。

教員採用試験の倍率が低いこと、地域の経済事情など、（地方部において）ストレートマスターの学生は集まりにくい傾向にある。

また、現職教員の教育方法は、拠点校方式（例：福井大学では教職大学院Ｍ１について特

定の勤務校に異動させ、夕方以降に拠点校で授業。主に授業実践向け）を採用しているところがある。本学は自身の学校を客観的に見るため派遣方式を採用している。
他、地域（和歌山県）の課題などを考慮し、個々に置かれた状況に応じた対応を実施する必要がある。

（５）閉会挨拶（本山研究科長）／次回日程について
次回は令和５年３月に予定。